

科目名	地方財政論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済 学科 □必修 ■選択
			法律 学科 □必修 □選択
英文表記	Local Public Finance	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	くすやま ひろあき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	楠山 大暁	修得単位	2単位
授業のテーマ	人口減少社会に直面しているわが国の地方財政システムが抱える課題を経済学的に理解する		
授業概要	国、地方をあわせ1,000兆円を超える債務を日本の財政は抱えています。その一方で、人口減少社会が進行している地域の持続可能性を、いかにして維持していくかが問われています。本講義では、基本的な地方財政システムを学ぶとともに、地方政府が抱える問題の本質を経済学的に分析していきます。		
到達目標	地方財政の現状について経済学的に理解する		
授業時間外の学習	指定したテキストの該当箇所をよく読んでください。 期末試験のほか、中間テストを実施します。講義の復習をしっかりとってください。		
履修条件	ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、財政学入門を履修していることが望ましい。		
授業計画			
第1回	ガイダンス、地方財政とは何か		
第2回	地方財政の仕組み		
第3回	地方財政の予算と収入① 地方交付税		
第4回	地方財政の予算と収入② 地方税		
第5回	地方財政の経費① 地方分権改革		
第6回	地方財政の経費② 少子高齢と地域の持続可能性		
第7回	政府の機能配分論		
第8回	中間テスト		
第9回	地方分権の経済理論① 分権化のメリット		
第10回	地方分権の経済理論② 分権化のデメリット		
第11回	補助金とソフトな予算制約		
第12回	地方財政の健全化		
第13回	地方財政のあるべき姿		
第14回	都市政策と福祉政策の統合① 地域包括ケアシステム		
第15回	都市政策と福祉政策の統合② コンパクトシティ		
第16回	定期試験		

テキスト	佐藤主光(2009)『地方財政論入門』新世社
参考文献・資料	中井英雄・齊藤慎・堀場勇夫・戸谷裕之『新しい地方財政論』有斐閣
成績評価の方法	<p>【平常点(10%)、中間テスト(40%)、定期試験(50%)】</p> <p>上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合は試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業中に小テストを数回実施します。 ・レポート課題は授業内で提示します。 ・授業の理解及び予復習が充分であることを確認するため、第8回授業時に中間テストを実施します。
成績評価基準	<p>【平成27年度(2015)以前に入学した学生】</p> <p>優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>【平成28年度(2016)以降入学した学生】</p> <p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p> <p>※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月・木曜日 14:40~16:10</p> <p>※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
学生へのメッセージ	地方行財政の現状・課題に対して問題意識をもってください。